

2023年4月5日

MMDLabo株式会社

**日米仏3ヶ国比較：都市部消費者の食の意識・動向調査 第3弾**  
**～エシカル消費編～**

**日米仏都市部在住の20代～40代、  
環境問題や倫理的な消費への意識からの取り組み・心がけ、  
3ヶ国いずれも「マイバック持参」「食品ロス削減」「マイボトル持参」  
食品ロス削減を目的としたアプリの利用経験、  
日本は8.4%、アメリカは36.9%、フランスは53.7%**

[https://mmdlabo.jp/investigation/detail\\_2190.html](https://mmdlabo.jp/investigation/detail_2190.html)

MMDLabo株式会社（東京都港区、代表取締役：吉本浩司）が運営するMMD研究所は、GMOリサーチ株式会社が提供する海外パネルを利用し、日本（東京）、アメリカ（ニューヨーク）、フランス（パリ）に住む20歳～49歳の男女を対象に2023年2月15日～2月20日までの期間で「日米仏3ヶ国比較：都市部消費者の食の意識・動向調査」を実施いたしました。調査結果は以下のとおりです。

※日本（東京）在住者（以下、日本）は430人、アメリカ（ニューヨーク）在住者（以下、アメリカ）は406人、フランス（パリ）在住者（以下、フランス）は406人に調査を実施しています。

こちらの調査は第1弾として「食生活編」、第2弾として「フードデリバリー編」をリリースしております。そちらも併せてご覧ください。

**【調査結果サマリー】**

- **日米仏都市部在住の20代～40代、  
環境問題や倫理的な消費への意識からの取り組み・心がけ、  
3ヶ国いずれもトップ3は「マイバック持参」「食品ロスがでないよう心がける」「マイボトル持参」**
- **米仏に比べ、日本の取り組み割合が低いものは「動物福祉が考えられた商品の購入」  
「有機農産物・無農薬農産物の購入」「コンポストや生ごみ処理機等を使った生ゴミの削減」など**
- **日米仏都市部在住の20代～40代、食品ロス削減を目的としたアプリの利用経験、  
日本は8.4%、アメリカは36.9%、フランスは53.7%**

■ 日米仏都市部在住の20代～40代、  
環境問題や倫理的な消費への意識からの取り組み・心がけ、  
3ヶ国いずれもトップ3は「マイバック持参」「食品ロスがでないよう心がける」「マイボトル持参」




■ 米仏に比べ、日本の取り組み割合が低いものは「動物福祉が考えられた商品の購入」

「有機農産物・無農薬農産物の購入」「コンポストや生ごみ処理機等を使った生ゴミの削減」など

日米仏の都市部に住む20歳～49歳の男女（日本430人、アメリカ406人、フランス406人）を対象に、環境問題や倫理的な消費への意識から取り組んでいること・心がけていることを聞いたところ（複数回答可）、日本（n=430）、アメリカ（n=406）、フランス（n=406）ともに、上位3項目は「買い物時にマイバッグを持つようにしている」「食品ロスがでないよう心がけている」「外出時にマイボトルを持つようにしている」となった。

続いて、3ヶ国間で他国に対し20.0%以上の取り組みに差がある回答を確認したところ、日本ーフランス、日本ーアメリカ間に20.0%以上の差がある項目があった。日本の「動物福祉が考えられた商品を購入するようにしている（放し飼い卵、動物実験なしなど）」がフランスに対し-30.4ポイントで最も差が大きく、次いで「有機農産物・無農薬農産物を購入するよう心がけている」がフランスに対し-26.8ポイント、「コンポストや生ごみ処理機等を使い、家庭ごみを減らしている」がフランスに対し-25.4ポイントとなった。

● 環境問題や倫理的な消費への意識から取り組んでいること・心がけていること（複数） ※国別

	日本 (n=430) 	アメリカ (n=406) 	フランス (n=406) 
買い物時にマイバッグを持つようにしている	56.5% 1位	49.0% 2位	52.2% 2位
食品ロスがでないよう心がけている	44.0% 2位	53.2% 1位	57.6% 1位
外出時にマイボトルを持つようにしている	26.3% 3位	33.5% 3位	40.1% 3位
省エネの家電製品を利用・購入するようにしている	15.8%	22.9%	26.6%
リサイクル品やアップサイクル品を積極的に取り入れている	11.4% アメリカとの差20%以上	31.5% 日本+20.1%	26.4%
地元で生産されたものや近隣で生産された農水産物の購入を心がけている	10.9%	18.2%	25.1%
フェアトレードの製品を購入するよう心がけている	7.0%	12.6%	26.1%
有機農産物・無農薬農産物を購入するよう心がけている	6.7% フランスとの差20%以上	23.2%	33.5% 日本+26.8%
動物福祉が考えられた商品を購入するようにしている (放し飼い卵、動物実験なしなど)	6.0% アメリカ・フランスとの差20%以上	26.8% 日本+20.8%	36.5% 日本+30.4%
動物性食品（お肉や魚類）を控えた食事内容にしている (することがある)	5.1% フランスとの差20%以上	16.7%	28.1% 日本+23.0%
食品や製品購入時にエコ関連の認証マーク付きであるかどうか確認するようにしている	4.9%	17.2%	22.7%
コンポストや生ごみ処理機等を使い、家庭ごみを減らしている	4.2% フランスとの差20%以上	20.0%	29.6% 日本+25.4%
再生可能エネルギー（太陽光や風力、地熱など）を扱う電力プランを契約	3.5%	13.3%	12.8%
植物肉・培養肉・代替肉を取り入れている	3.0%	17.7%	17.5%
上記にあてはまる行動はいずれもしていない	23.7%	3.0%	1.0%

日本—フランス、日本—アメリカ間に20.0%以上の差がある上位3項目を年代別でみると、「動物福祉が考えられた商品を購入するようにしている（放し飼い卵、動物実験なしなど）」は、フランスの20代（n=160）の割合が最も高く36.9%だった。フランスは20代～40代すべての年代で同程度の割合が取り組んでいることがわかった。「有機農産物・無農薬農産物を購入するよう心がけている」は、フランスの40代（n=113）の割合が最も高く39.8%であった。「コンポストや生ごみ処理機等を使い、家庭ごみを減らしている」も、フランスの20代（n=160）の割合が最も高く33.8%という結果になった。

● 環境問題や倫理的な消費への意識における取り組み・心がけで日本と他国で差が大きかった3項目 ※国別、年代別

	動物福祉が考えられた商品を購入するようにしている (放し飼い卵、動物実験なしなど)	有機農産物・無農薬農産物を購入するよう心がけている	コンポストや生ごみ処理機等を使い、家庭ごみを減らしている
日本20代 (n=126)	7.9%	12.7%	4.8%
日本30代 (n=142)	5.6%	3.5%	4.9%
日本40代 (n=162)	4.9%	4.9%	3.1%
アメリカ20代 (n=144)	29.2%	22.9%	22.9%
アメリカ30代 (n=137)	32.8%	27.7%	19.0%
アメリカ40代 (n=125)	17.6%	18.4%	17.6%
フランス20代 (n=160)	36.9%	28.8%	33.8%
フランス30代 (n=133)	36.1%	33.8%	27.1%
フランス40代 (n=113)	36.3%	39.8%	26.5%

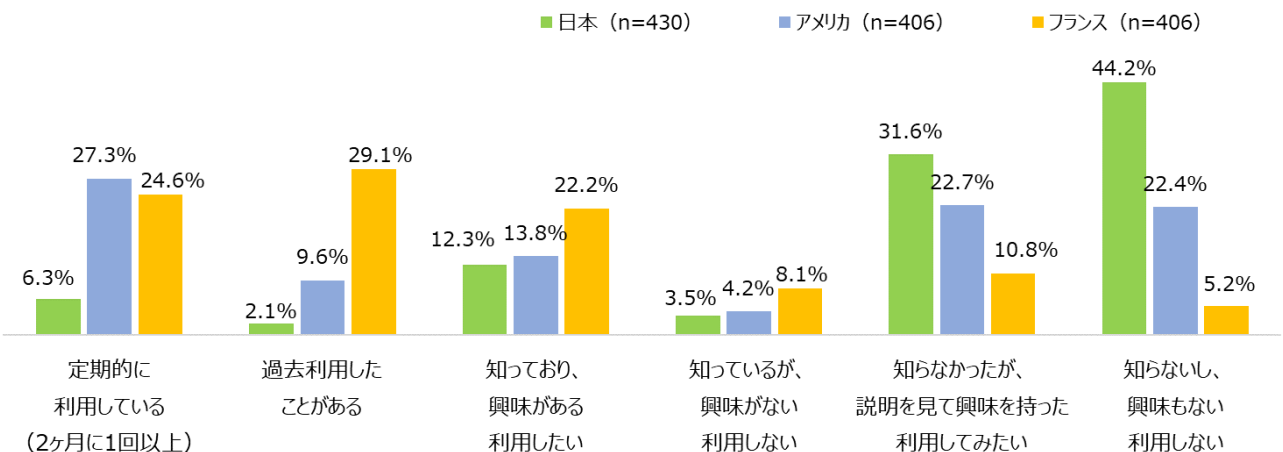
MMD研究所調べ

■ 日米仏都市部在住の20代～40代、食品ロス削減を目的としたアプリの利用経験、日本は8.4%、アメリカは36.9%、フランスは53.7%

日米仏の都市部に住む20歳～49歳の男女（日本430人、アメリカ406人、フランス406人）を対象に、食品ロス削減を目的としたアプリの認知～利用・興味について聞いたところ、認知している割合は日本（n=430）が24.2%、アメリカ（n=406）が54.9%、フランス（n=406）が84.0%であった。利用経験は、日本（n=430）が8.4%、アメリカ（n=406）が36.9%、フランス（n=406）が53.7%となった。「知らなかったが説明を見て興味を持った・利用してみたい」という割合は日本（n=430）は31.6%となり、アプリを知れば興味を持つ層が日本も一定層いることがわかった。

● 食品ロス削減を目的としたアプリの認知～利用・興味（単数） ※国別

※アプリ説明をした上で、例として日本ではTABETE、米仏ではToo Good To Goを提示



MMD研究所調べ

続いて、日米仏の都市部に住む20歳～49歳の男女（日本430人、アメリカ406人、フランス406人）を対象に、知っているもしくは利用しているエシカル消費の推進や環境問題に取り組むスマートフォンアプリを自由に記載してもらったところ、下記のような回答を得られた（アプリ名の欄）。アプリ説明の欄では、アプリ名をもとにApp StoreやGoogle Playでの説明文などから引用・作成している。

● 知っているもしくは利用しているエシカル消費の推進や環境問題に取り組むスマートフォンアプリ（自由記載）

※一部抜粋、国別

	アプリ名	アプリ説明
日本	TABETE (タベテ)	店頭で売り切れないパンやお惣菜、予約のキャンセルが出てしまった食事、食材の端材でつくったオリジナル商品など、食品ロスになりそうな食事をアプリを通して安く購入できる（店舗受取）
	Green Ponta Action (グリーンポインタアクション)	環境や社会にやさしく気軽にできる取り組みを中心に、さまざまなアクションをご用意されており、達成すると「スコア」を獲得できる
	ecobuy (エコバイ)	日頃のお買い物で賞味期限の短くなった商品をご購入することでポイントを獲得できる
	Kuradashi (クラダシ)	フードロス削減を目指し、まだ食べられるにも関わらず捨てられてしまう可能性のある商品を、おトクに購入できる（配送）
	Let (レット)	余った在庫、型落ち品、規格外品、見切り品、B級品など「訳あり品」を購入できる（配送）
	Pirika (ピリカ)	ピリカは世界最大級のごみ拾い&社会貢献SNSアプリ
アメリカ	Good On You	3,000を超えるファッションブランドの人、地球、動物に対するサステナビリティに対する評価を確認できる
	HappyCow	ビーガン、ベジタリアン向けの店を検索できる
	Imperfect Foods	まだ食べられる売れ残った商品や見た目が悪くなった食材を購入できる（配送）
	Too Good To Go	レストランやカフェ、ショップからでた売れ残りの食べ物をアプリを通して安くで購入できる（店舗受取）
フランス	Too Good To Go	レストランやカフェ、ショップからでた売れ残りの食べ物をアプリを通して安くで購入できる（店舗受取）
	Yuka	食品と化粧品をスキャンして、成分を解説し、健康への影響を評価する
	Phenix	近くの店舗から売れ残った食品を安くで購入できる（店舗受取）
	Frichti	無添加のメニューや食料品を届けてくれる
	Mapak	持ち帰りや配達用に再利用可能な容器を無料で借りられる
	90jours	社会や環境に貢献する方法をコーチしてくれる

※アプリの説明はApp StoreやGoogle Playの説明を引用もしくはそれをもとに作成

MMD研究所調べ

※本調査レポートは小数点以下任意の桁を四捨五入して表記しているため、積み上げ計算すると誤差がでる場合があります。

※回答者の属性は会員登録後に無料レポートよりご確認ください。

**【調査概要】**

「日米仏3ヶ国比較：都市部消費者の食の意識・動向調査 第3弾 ～エシカル消費編～」

調査期間：2023年2月15日～2月20日

有効回答：日本430人、アメリカ406人、フランス406人 ※人口構成比に合わせて回収

調査方法：インターネット調査

調査対象：日本（東京）、アメリカ（ニューヨーク）、フランス（パリ）に住む20歳～49歳の男女

設問数：20問

**【今回調査した全設問】**

Q1 あなたの性別をお知らせください。

Q2 あなたの年齢をお知らせください。

Q3 あなたのお住まいの地域をお知らせください。

Q4 あなたの職業をお知らせください。

Q5 あなたの世帯年収を教えてください。

Q6 あなたは日常生活において食材や食事内容に関してどのような立場にいますか？

Q7 あなたの日々の食事内容に関して、最も割合が多い食事内容を教えてください。

Q8 あなたが食材・食品を購入する際に重視していることとしてあてはまるものをすべて教えてください。

Q9 下記サービスに関して、直近1年間のあなたの平均的な利用頻度を教えてください。

Q10 直近1年間でフードデリバリーを利用した際、あなたはどのように注文しましたか？利用したことある方法すべてお選びいただいた後、その中で最も多く利用した方法を1つ教えてください。

Q11 フード注文・配達プラットフォームのアプリ・サイト利用した、と回答した方にお伺いします。あなたが直近1年間で利用したアプリ・サイトをすべて教えてください。

Q12 あなたが直近1年間でフードデリバリーサービス（調理済みの料理の配達）を利用したシーンとしてあてはまるものをすべて教えてください。

Q13 あなたはマクドナルドやスターバックスなどが提供しているモバイルオーダーを利用したことがありますか？

Q14 野菜・果物や肉・魚など食材のネット注文・配達サービスを利用している方にお伺いします。あなたがサービスを利用する理由としてあてはまるものをすべて教えてください。

Q15 ミールキット（食材とレシピが入った料理セット）のネット注文・配達サービスを利用している方にお伺いします。あなたが利用する理由としてあてはまるものをすべて教えてください。

Q16 下記の項目の中であなたが環境問題への意識や倫理的な消費への意識から取り組んでいること、心がけていることがあればあてはまるものをすべて教えてください。

Q17 あなたは（日：TABETE 仏・米：Too Good To Go）などに代表される食品ロス削減を目的としたアプリを知っていますか？知っている場合は利用したことがありますか？

Q18 あなたが知っているもしくは利用しているエシカル消費を推進したり、環境問題に取り組むスマートフォンアプリがあれば教えてください。

Q19 あなたと同居している方をすべて教えてください。

Q20 あなたと現在同居している方で、18歳未満の家族はいますか？いる場合は、その方の年齢を教えてください。複

**NEWS RELEASE** 報道関係者各位

数人18歳未満の家族がいる場合は、全員に関して教えてください。

**【本件に関するお問い合わせ】**



配信元：MMD研究所 <https://mmdlabo.jp/>

担当者：三崎

連絡先：03-6451-4414 / [info@mmdlabo.jp](mailto:info@mmdlabo.jp)